

日本経済学会 2007 年度春季大会

セッション名：エマージング・エコノミー

6月3日(日) 午後の部 14:30-16:30

## 国際金融市場の発展と通貨危機・銀行危機の相関

奥山 聡子

東北大学経済学研究科博士課程後期

### 要 旨

アジア危機では、タイや韓国、そしてインドネシアで通貨危機と銀行危機が同時に発生し、双子の危機となった。双子の危機は現代の危機の特徴である。双子の危機が頻繁に観察されるようになったのはここ数十年であり、それ以前は通貨危機と銀行危機は単独で発生するが多かった。また、アジア危機の際も銀行危機は発生せず、通貨危機のみが発生したケースもあった。

国内投資の破綻と銀行危機の関係にも注目してみると、銀行危機と国内投資の破綻は必ずしも同時に発生してはいない。アジア危機のときも、タイでは国内投資の破綻を伴った銀行危機の発生であった。しかしインドネシアでは、双子の危機の発生当初、国内投資の破綻は起こっていなかった。

通貨危機、銀行危機、国内投資の破綻は、様々な形で発生する。本報告では、理論モデルを用いて、通貨危機、銀行危機、国内投資の破綻が“外国資本流入量”と“国内信用量”に依存して単独で発生したり同時に発生したりすることを示す。そして、国際金融市場の発展に伴い、双子の危機が発展途上国で起こりやすい状態にあるという結論を導く。

### 主要参考文献

Allen, F. and Gale, D. [2000], “Bubbles and Crises,” *The Economic Journal*, vol.110, pp.236-255.

Flood, R. and Marion, P [2004], “A Model of the Joint Distribution of Banking and Currency crises,” *Journal of International Money and Finance*, vol.23, pp.841-865.